

区民参加と協働のグランドデザイン

暮らしのグランドデザインと都市のグランドデザインで区民の皆さまと共有した、目指す将来像を実現するには、区は行政でなければ担えない役割を徹底して果たすとともに、地域に根差した区民の皆さまの自発的な活動試行錯誤しながら、「練馬ならではの新たな自治の創造」を目指します。

1. 地域の現状と課題

(1) 地域の現状

「地縁に基づく互助」と「公助」が連携した「公共サービス」が地域の生活基盤を支えている

▶「地縁に基づく互助」は、町会・自治会を中心に組み込まれている

- 区内最大の地縁団体である町会・自治会(区内252団体)を中心に、地縁に基づき活動する各種団体が、地域住民同士の互助に取り組んでいます。
- 「地縁に基づく互助」と、「公助」としての行政サービスが連携し、地域の生活基盤を支える「公共サービス」を担っています。

▶区民が行う自由な社会貢献活動としての「区民活動」も展開されている

- 主に、NPO・ボランティア団体などが担う、特定の課題や関心事に取り組む「区民活動」と呼ばれる活動も普及しています。

▶地域を取り巻く状況は大きく変化している

- 世帯構成の変化 ～世帯の小規模化、増える単身世帯～
- 地域の互助意識の変化 ～互助の必要性に実感が持てない～
- 人口動態による変化 ～地域住民の価値観や生活様式などの多様化が進む～

「地縁に基づく互助」の現状

- 町会加入率の低下
若年層を中心に、関心が向かない、メリットや必要性を感じないという意見が増加しています。
- 担い手の不足
新たな加入者の減少により世代交代が進まず、役員の高齢化や特定の人への役割の集中が生じています。

「公助」の現状

- 行政サービスの役割の変化
児童虐待への対応や生活困窮者の支援、防災対策、まちのインフラ整備など、行政でなければ担えない役割を徹底して果たす必要性が高まっています。

「区民活動」の現状

- 地域の担い手の一つとしての期待
区民活動の中には、専門性を活かした先進的な取り組みも存在します。地域の担い手の一つとしての期待が高まっています。
- 区民ニーズ、地域の課題との乖離
区民活動でありながら、主体性に乏しく、行政への要求行動が活動の中心となってしまう場合があります。
- 活動への認知・信頼の不足
専門性を活かした先進的な活動も見られますが、活動への認知度、信頼度が高まっていません。

ーみどりの風吹く 練馬ならではの新たな自治の創造へー

区民参加と協働を根幹に据えて、ソフトとハード両面にわたるインフラ整備に取り組むことが不可欠です。が、区内の至るところ、多くの人々の間で活発に行われるよう支援します。区民の皆さまと区と一緒に

(2) 地域の課題

▶「地縁に基づく互助」

- 町会・自治会を中心とする「地縁に基づく互助」の活動

▶「公助」

- 区が提供する「公助」としての行政サービスの活動

▶「区民活動」

- NPO・ボランティア団体などによる「区民活動」

いずれも、活動の維持・継続・充実に対する、「組織の課題」を抱えている

地域の課題に単独で取り組まなければならないと考えている

- 「組織の課題」を抱えている
団体に共通する課題は、団体の組織基盤や人材、資金などに関する課題、いわば「組織の課題」です。
- 「地域の課題」に取り組むために
多くの団体は、「組織の課題」に対応しようと、日々努力しています。
反面、他の区民や団体などと連携する、あるいは力を借りるという発想があまり見られない状況です。
その結果、本来の目的である「地域の課題」への取り組みが進まない、あるいは、活動に行き詰まるケースもあります。

互いを協働の相手として捉えていない

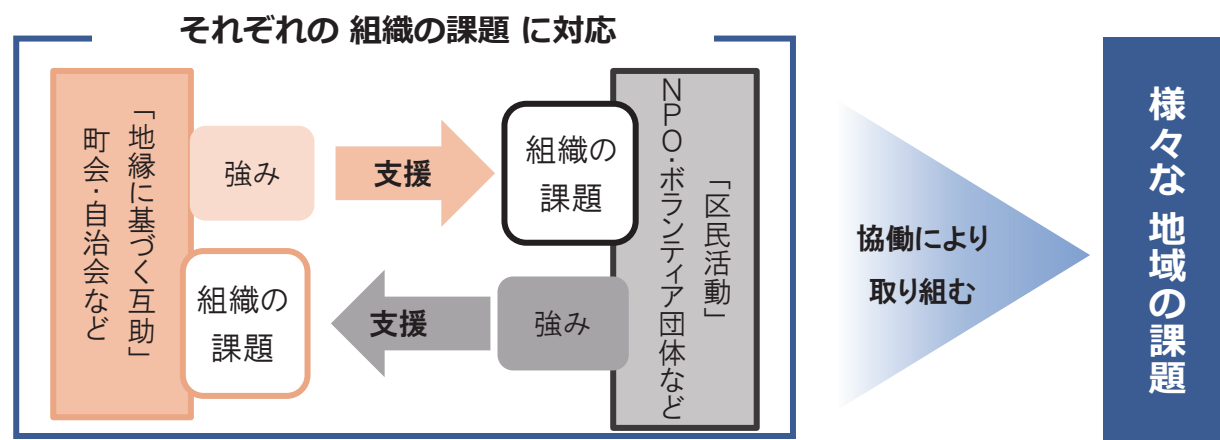
- 協働に対する認識
町会・自治会を中心とする「地縁に基づく互助」と、NPO・ボランティア団体などによる「区民活動」との間には接点が少ないのが実情です。
このため、互いに協働する相手とは考えにくい状況です。
- 区の支援
区も、それぞれの活動を区別して捉えてきました。このため、それぞれの組織の課題に対応する区の支援も、各々の活動に対して、個別に充実・強化を図っていく方向性となっている状況です。

2. 新たな「自治」の創造への芽生え

(1) 地域の現場から生まれ始めた、協働の取り組み

町会・自治会を中心とする「地縁に基づく互助」の活動や、NPO・ボランティア団体などによる「区民活動」の中から、協働の取り組みが生まれ始めている

- 地域の現場では、町会・自治会を中心とする「地縁に基づく互助」の活動をはじめ、NPO・ボランティア団体などによる「区民活動」を行う様々な区民や団体が、互いの強みを活かして「組織の課題」に対応する。そこへ区や中間支援団体が、団体間の連携・協力への働きかけなどの支援を行い、「地域の課題」に立ち向かう、協働の取り組みが生まれ始めています。
- これらの取り組みは、区の主導ではなく、区民や団体の創意から生まれたものであり、多くの区民が「地域の課題」をともに考え、一緒に取り組む、地域に根差した自発的な活動に発展しています。



▶ 様々な区民や団体が、地域のことをわが事として考え、地域活動に一步踏み出し、協働の取り組みを始めるきっかけとなる取り組み

- ・町会・自治会、PTA⇄ボランティア団体が連携した活動に、これまで地域活動に参加する機会が無かった区民も加わり、子育てのひろばを立ち上げ

▶ 区民や団体同士の信頼関係の醸成につながる取り組み

- ・町会・自治会やボランティア団体、区民など、多様な立場の人が集まり、練馬のみどりについて話し合う
- ・街かどケアカフェで、町会・自治会⇄ボランティア団体などが、それぞれの「強み」を活かして連携しながら、高齢者サロンを開催

▶ 区民や団体の自由な発想から生まれるアイデアを具現化するため、区もともに考え、行動する取り組み

- ・大学と介護サービス事業者、地域のコンビニエンスストアが協力し、認知症高齢者への見守りを強化

▶ 区組織の縦割りを超え、区民参加と協働を推進する取り組み

- ・「区内で飲食店を経営するシェフのグループの練馬野菜を使った新たなレシピの開発」や、「知的障害者が、地域と共生できる暮らしを支える交流拠点づくり」などの取り組みに、区職員も参加し、活動を支援

新たな「自治」の創造への芽生え

これらの取り組みは、それぞれの「組織の課題」に対応し、町会・自治会やNPO・ボランティア団体などが協働しながら、「地域の課題」解決力を高めていく試みです。

ここには、地域の「自治」の創造への芽生えがあるのではないのでしょうか。

(2) 区民と区と一緒に手探りで進めていく

区民と区と一緒に、手探りで進めていく

- 協働の取り組みは、あくまで一つの可能性

多くの区民が参加し、協働しながら取り組む地域の自治には、様々なあり方が考えられます。ただ一つの手法が、多様な区民の生活様式や、すべての地域に共通した解決方法にはなりません。

- 地域の状況は変わり続ける

社会・経済情勢の変化などを受け、地域の状況はこれからも大きく変化し続けることが確実です。正確に見通すことは、誰にとっても困難です。

- 区民と区と一緒に、手探りで進めていく

練馬ならではの新たな自治の創造に向けた、区民参加と協働の推進は、区民と区が一緒になって試行錯誤しながら、手探りで進めていくほかありません。

様々な区民や団体、そして区と一緒に取り組むことが重要

- 区内の至るところで、多くの区民が参加することが必要

だからこそ、区内の至るところ、様々な「地域の課題」に取り組む人々の間で、次々と、新たな試みに挑み続けること。そして区も一体的に取り組むことが重要です。

これには、組織や活動の形態に関わらず、多くの区民や団体そして区がともに考え、一緒に取り組まなければなりません。

※27ページ～22ページでは、現在考えられる、取り組みの方向性、区の具体的な支援の例を紹介します。

3. 現在考えられる、区を取り組みの方向性と具体的な支援の例

(1) 取り組みの方向性

時代の変化や地域の状況などにより、区の支援のあり方も様々に変化する

▶ 区が取り組む、4つの方向性

- ① 様々な区民や団体が、地域のことをわが事として考え、地域活動に一步踏み出し、協働の取り組みを始めるためのきっかけづくり
- ② 区民参加と協働の取り組みが、持続的に発展していくために必要な、区民や団体同士の信頼関係の醸成
- ③ 区民参加と協働の取り組みにつながる、区民や団体の自由な発想から生まれるアイデアの具現化に向け、区もともに考え、行動する仕組みづくり
- ④ 区組織の縦割りを超え、区民参加と協働を推進する体制づくり

町会・自治会を中心とする「地縁に基づく互助」は地域のために欠かせない

▶ 町会・自治会を中心に取り組まれる「地縁に基づく互助」の活動は、今後の地域においても不可欠

○ 他の団体には無い特性がある

町会・自治会は、区内最大の住民組織であり、区内すべての地域を網羅している。地域の全世帯・住民に開かれている、他の団体には無い特性を持っています。

○ 有事の際に大きな力を発揮する

地域防災や一人暮らし高齢者の見守りなどの活動分野は、地縁に基づく互助とは切っても切れない関係にあります。平時からの協働があるからこそ、有事に協働が機能します。

区は、地域の現場で、様々な区民や団体が、互いの強みを活かして組織の課題に対応し、地域の課題に協働して取り組めるよう支援します。

(2) 具体的な支援の例

ここに挙げたものはすべて、「地域の現場から生まれ始めた協働の取り組み」の中で、区が実施している具体的な支援の例です。区は、区民の自由な発想に基づく、新たな自治の創造の芽生えとなるこれらの取り組みが、区内の至るところ、様々な人々の間で行われるよう支援します。

方向性① 様々な区民や団体が、地域のことをわが事として考え、地域活動に一步踏み出し、協働の取り組みを始めるためのきっかけづくり

地域の課題に気づいた区民が集い、子育てのひろばを立ち上げ



身近な場所で、子育て世帯が気軽に交流、相談できる子育てのひろばを開設しようと、地域活動やボランティアに関する講座などを通じて知り合った区民同士で、ボランティア団体を立ち上げました。ここに地域の町会・自治会が連携し、場所の確保や広報活動を積極的に進めています。これまで地域活動に参加する機会が無かった方が、新たにボランティアを始めるきっかけにもつながっています。

区は、活動に関する相談や、活動の充実に向けた助成のほか、練馬Enカレッジなどの事業を通じて、区民が主体性、自主性を発揮しながら活動に取り組めるよう支援しています。

【区の支援】

○ 地域活動へのきっかけづくり

- ・練馬Enカレッジ（地域活動やボランティアに関する講座など）の実施

○ 地域活動開始時の支援

- ・やさしいまちづくり支援事業
- ・まちづくり活動助成事業 ※みどりのまちづくりセンター事業

多様な区民が参加する、みどりの区民会議の開催



町会やボランティア団体、事業者など、多様な立場の人が集まり、練馬のみどりについて、将来にわたり守り育てるための方策などを話し合っています。

日頃、地域で清掃活動を行っている方々から、「落ち葉掃きや雨樋掃除に困っている高齢者世帯を学生が訪問し、掃除を行う。大学と連携して単位取得の仕組みをつくる」取り組みが提案されるなど、話し合いの中から、リアルな現場感覚に基づく、新たなアイデアが生まれ始めています。

区やみどりのまちづくりセンターでは、区民や団体、区が地域の課題などを話し合う場づくりに取り組んでいます。

【区の支援】

- 数多くの団体の活動情報を知ることができる情報基盤の充実
 - ・ 地域活動に関するホームページや情報誌の発行
- 区民や団体同士が出会い、互いの「強み」などを知るきっかけとなる機会の充実
 - ・ 地域活動フェスティバルや、地域活動見本市などの開催
- 協働に対する気づきや発想の転換、意識の向上につながる機会づくり
 - ・ 多様な立場の区民や団体が参加する、協働のワークショップなどの開催

区民と協働で、街かどケアカフェを運営



街かどケアカフェで、町会と地域の見守り活動に取り組むボランティア団体などが連携しながら、高齢者向けに、おしゃべりや簡単な体操などを行うサロンを開催しています。

町会は、回覧板やポスター掲示、声掛けなどで事業の周知をするとともに、町会員や民生・児童委員がボランティアスタッフとしてサロンの運営に参加しています。

区や社会福祉協議会のボランティア・地域福祉推進センターでは、多様な区民や団体同士が、協働で地域の課題に取り組むことができるよう、対話の場づくりや団体間のコーディネートを行っています。

【区の支援】

- 組織の課題に対応できる「強み」を持つ団体同士の対話の場づくり
 - ・ 団体同士のマッチングイベントの開催
- 中間支援団体※による相談窓口機能・コーディネート機能の強化
 - ・ 中立性、信頼性の高い、区や区内の中間支援団体（社会福祉協議会・みどりのまちづくりセンター）による相談支援

※区民、団体、事業者、行政などの間に立って、中立的な立場で、それぞれの活動を支援する団体

方向性③ 区民参加と協働の取り組みにつながる、区民や団体の自由な発想から生まれるアイデアの具現化に向け、区もともに考え、行動する仕組みづくり

地域ぐるみで、コンビニを認知症高齢者の見守り拠点化



区は、区民の自由な発想による、未来に向けた練馬の発展につながる活動を募集し、「地域おこしプロジェクト」として支援しています。

プロジェクトの一つである「ねりまコンビニ協働プロジェクト」では、大学と介護事業者が中心となり、区内のコンビニエンスストアを地域ぐるみで認知症高齢者を見守る拠点化を目指しています。平成29年度は、認知症への理解を深める新たな研修プログラムを開発しました。今後は、コンビニエンスストア店舗など区内各所で研修を開催し、普及を目指していきます。

区は、引き続き、運営資金を補助するとともに、区職員も加わり、アイデアを具現化するためのサポートを行っていきます。

【区の支援】

- 区民参加と協働の取り組みにつながる、活動アイデア具現化への支援
 - ・ 活動費助成や活動拠点の確保への支援
- アイデアの発想→企画→実施→改善の各段階を通じた伴走型支援
 - ・ 区や、区内の中間支援団体による相談支援

方向性④ 区組織の縦割りを超え、区民参加と協働を推進する体制づくり

区民の自発的な活動に、区職員も参加



「地域おこしプロジェクト」では、「都市農業の新たな魅力創造に向けた、若手シェフ達による練馬野菜を使った新しい料理の開発」、「知的障害者が自分らしく、いきいきと人生を楽しみ地域と共生できる暮らしを支える、地域の交流拠点づくり」といった、区民の多種多様なアイデアを実現しようと、区も一緒に取り組んでいます。

区は、若手職員をプロジェクト推進担当として配置し、区民とともに考え、行動しながら、現場感覚を学び、協働に対する意識改革やノウハウの蓄積を図っています。

プロジェクトの実施を契機に、区組織の縦割りを超え、区民参加と協働を推進する体制づくりを進めています。

【区の取り組み】

- 職員の意識改革
 - ・ 地域おこしプロジェクトなど、区と協働して地域の課題に取り組む区民や団体と、ともに考え、行動する経験となる機会づくり
- 分野横断的な情報共有
 - ・ 地域で活動する区民や団体と、どの部署が、どのような内容で連携・協力しているのか、庁内での情報共有

みどりの風吹く 練馬ならではの新たな自治の創造へ

地域の現場から生まれ始めた協働の取り組み

新たな「自治」の創造への芽生え

区民と区と一緒に手探りで進めていく



区の取り組みの方向性

① 地域活動に一步踏み出し、協働の取り組みを始めるためのきっかけづくり

② 区民や関係の醸成
団体同士の信頼

③ 区民や団体のアイデアの具現化に向け、区もともに考え、行動する仕組みづくり

④ 区組織の縦割りを超え、区民参加と協働を推進する体制づくり